

飯縄山（いづなやま） 1917m

飯縄山は江戸時代まで戸隠山(1904m)、小菅山(飯山市瑞穂)とともに信州の三大修験道場だった。今も飯綱スキー場の南西のはずれに、修験道場当時の巨岩信仰のしるし「天狗の岩」がある。また、室町時代以降、行者たちはこの山に集まって妖術「飯縄忍法」の技を磨いたといわれ、戦国乱世に忍者として活躍したといわれる。戦国といえば、川中島の合戦で知られる上杉謙信の兜の前立ては飯縄大権現であり、謙信のこの山への信仰の深さを物語っている。

飯縄山は、今も大勢の人々に親しまれる山である。善光寺平の北にそびえるこの独立峰は、故郷を離れた人たちの脳裏にまず浮かぶ故郷の山である。南面に広大な裾野を展開して登る人々をやさしく迎え入れ、頂上からの展望はすばらしい。北は遠く日本海や佐渡ヶ島まで、南は富士山まで望むことができる。また、飯縄山は、戸隠山、黒姫山(2053m)、妙高山(2446m新潟県)、斑尾山(1382m)とともに長野県の北部一帯では「北信五岳」と総称され、これらの山々は地元の人々の暮らしに深い関わりを持ち、故郷のシンボルとして愛されている。

飯縄山のピークは南北どちらから見ても、二つあるように見える。特に南の善光寺平から見ると、ほとんど同じ高度に左右のピークが頂稜を結んでいるが、三角点があるのは右のピークであり、人のにぎわいを集める左のピーク(1909m)には飯縄大権現を祭った小さな神社があって善光寺平を見下ろしている。右の山頂から北1kmには霊仙寺山(1875m)がかわいいピラミッド型にそびえ、山麓には昭和57年に開設した飯綱リゾートスキー場がある。

この山はまた山麓に湖沼が多く、それが人々に愛されるゆえんの一つになっている。山麓に湖沼を抱く火山は少なくないが、この山は格別それが多く、比較的大きい霊仙寺湖、大座法師池、猫又池、大池、一ノ倉池のほか八つほどの湖沼が数えられ、夏の高原に一層の涼気をそえている。

登山路は四つの登頂コースがある。南麓を走るバードラインの途中の一ノ鳥居口から、西の戸隠村中社から、戸隠村スキー場から瑠璃山(1748m)経由、飯綱町の霊仙寺湖から霊仙寺山経由の各コースで、いずれも登山口から三時間～四時間で登頂できる。

植物については、垂直分布の変化がわかりやすい山である。一ノ鳥居側の登山道を例にとると、登山道付近は植林されたカラマツ林が多い。やがてミズナラを主とする広葉樹林となり、シラカンバも混じる。山頂に近づくにつれダケカンバに変わっていくが、やがて樹高も低くなり、わずかにコメツガなどの針葉樹も混じってくる。夏期は低木のノリウツギが白い花をつけてよく目立つ。中腹に開かれたスキー場は樹木が切り払われたため草原となり、ヤナギランが繁茂している。八月上旬ごろ山頂は一面花で埋まり見事である。マルバダケブキ、クガイソウ、ハクサンフウロ、シモツケソウ、ミヤマコウゾリナなどがいっせいに花をつける。秋にかけてはマツムシソウも多い。マルバダケブキやマツムシソウにはよくクジャクチョウが訪れる。そのほか山頂ではキアゲハ、アキアカネなどが多く目にとまる。

飯縄山は截頭円錐型の二重式成層火山の主峰である。この火山は、外輪山、中央火口丘群、寄生火山、爆裂火口等から成る。外輪山は溶岩や火山砕屑物から成る成層火山で、山体の上部ほど溶岩が厚くなる。最大の中央火口丘瑠璃山も、下部は火山砕屑岩からなり、最上部に溶岩が薄くあるだけである。外輪山の岩石はときに橄欖石を少量含む複輝石安山岩で、瑠璃山頂付近は玄武岩溶岩からなる。また中央火口丘の天狗岳・タカデッキは角閃石を多量に含む含紫蘇輝石角閃石

安山岩である。

飯縄山は、地質学上で妙高火山群と呼ばれる火山群の南端に位置し、北から妙高―黒姫―飯縄の三山がおよそ8km間隔で一直線に並び、見事な火山列を作っている。妙高山の西北方およそ8kmには活火山の焼山(2400m新潟県)がある。この火山列では南端の飯縄火山が最初に噴火活動を起こして山体を形成していったが、活動が終息しないうちに次の黒姫火山に活動が移り、さらに北へ移動して妙高山、焼山の順に火山が誕生していった。現在では北端の焼山だけが活火山として、往時の余勢をとどめている。飯縄山山頂からこの火山を概観すると、火山の東南半には飯縄神社―山頂三角点―扇平を経て霊仙寺山に至るほぼ平らな尾根が連なり、南から北北東に向かって、三日月形の緩やかな弧をえがき外輪山の原形をとどめている。これら外輪山の山頂尾根からは、東方～東南方に向かって放射谷が発達し、山腹には何枚もの溶岩の流下による階段状の地形が発達する。この溶岩流末端に続いて広大な裾野が展開している。火山の南東麓の標高900～1,000mの高原には、低湿な沼沢地があり、大座法師池をはじめ、霊仙寺湖など合わせて13個の湖沼が火山体を取り巻いて点在する。これに対し、火山体西北半には、やや変形した火口原が広がり、瑠璃山、天狗岳、タカデッキ(1717m)、中ノ峰などの中央火口群が集まりさらに瑠璃沢源流付近には爆裂火口跡があつて、東南半の単調な地形に比べ、きわめて複雑である。

出典： 信濃毎日新聞社 『信州山岳百科Ⅲ』(一部改) 昭和58年12月10日発行